

『大腸癌の腫瘍微小環境におけるがん幹細胞性および腫瘍免疫機構に関する2施設共同研究』

1. 研究の対象

2006年10月から2019年3月の間に当院で大腸がんの手術を受けられた方

2. 研究目的・方法

防衛医科大学校外科学講座では大腸癌患者さんの術後の予後予測に有用な指標として、特に低分化胞巣、線維性癌間質、簇出といった新しい病理組織学的因子に着目して検討してきました。特に、大腸癌の辺縁に存在する線維性癌間質の形態学的特徴に基づいた desmoplastic reaction (DR) 分類を考案し、これが良好な予後予測因子であることを報告しており、多施設症例を用いた検討でもその有用性を検証しております。これら新規病理学的因子は癌細胞とその周囲の組織で構成される腫瘍微小環境における腫瘍免疫の抑制と関係していると考えられます。

そこで本研究では、癌関連線維芽細胞 (cancer-associated fibroblast; CAF) とがん幹細胞性の関連、制御性 T 細胞等の腫瘍免疫逃避環境の解明、新規病理学的因子の免疫病理学的意義等について解析を行うことを計画しています。特に、がん幹細胞

(Cancer stem-like cells, CSCs) は、治療に抵抗性を示し、再発・浸潤・転移に強く関与すると注目されておりますが、これまでに線維性癌間質との関連は明らかにされておられません。本研究ではがん幹細胞に関して先駆的な研究を行っている札幌医科大学の第一病理学講座との共同研究により、防衛医科大学校でこれまでに実施した研究で採取・保存している腫瘍組織・細胞等を用いて DR 分類とがん幹細胞性の関連について研究することを予定しています。

本研究の成果により、腫瘍微小環境を標的とした抗体療法、T 細胞療法などの新規がん免疫治療法の開発につながることを期待されます。

研究期間は、本研究に関する防衛医科大学校長の研究承認日から2024年12月31日までの予定です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、病理検査所見、再発等の予後等

試料：病理診断で使用したプレパラート、ホルマリン固定パラフィン標本、凍結標本、切除検体から分離培養した癌細胞および癌間質細胞

4. 外部への試料・情報の提供

研究施設間の情報提供は、パスワードで保護された匿名化データを電子的配信で授受し、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。また、資料の授受について

も、研究用の ID 番号のみで管理し、個人が特定できる情報を含めないようにして郵送等で行います。匿名化の対応表は、当科の研究責任者に指名された医師が保管・管理します。

5. 研究組織

共同研究施設（責任者）：札幌医科大学 第一病理学講座（鳥越俊彦）

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒359-8513 埼玉県所沢市並木 3-2

防衛医科大学校 外科学講座 梶原由規

電話：04-2995-1637 FAX：04-2996-5205

研究代表者兼責任者：

防衛医科大学校外科学講座 上野 秀樹